

第1回 国語技能検定 バージョン1・5 解説 (解答は最終ページ)

★本解説における「接続語」とは、「関係を表す言葉」という意味で用いている。品詞分類における「接続詞」よりも広い意味。また、仮定条件などの助詞の働きは因果関係に含めている。

13 「対比関係」整理問題

ここに書かれた固有名詞は全て架空のものである。実在しない。  
内容的知識がなくても、関係性の操作によって形式的に相応の意味を生み出すことができるという言語の特徴を表現した設問である。

まず、この問いが「異なる」もの、すなわち「相違点」を問題にしていることに注目する(設問の読解Ⅱ鉄則5)。そこで、共通点はカットして考えてよいことになる。「マーケティングを近づける」が共通点だ。それをカットすると、文章は次のようになる。

セリトリプチンという薬品は、  
ガルパニソンの働きを / 無効化するが、  
パルジチソンの働きは / 無効化できない。

こうすると一目瞭然。――部が、「アはAだが、イはB」の型になっている。  
相違点は、対比関係によって示されるわけだ。

答えは、必然的に「1 ガルパニソン」となる。

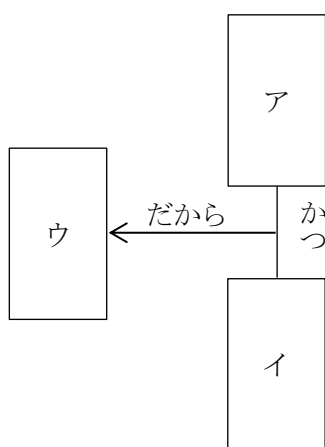
なお、この問題は、ある新聞記事で紹介された問題をヒントにして作成した。

詳しくは、「中学生 正解率9%の「一文読解」をどう教えるか?」新井紀子氏によるRSTの結果を受けて「」を参照のこと。→ <https://bit.ly/2j5bm2K>

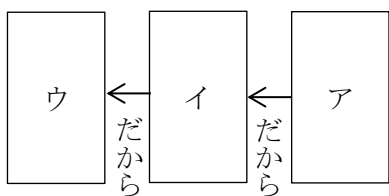
14 「因果関係」整理問題

因果関係には、大きく分けて次の2パターンがある。

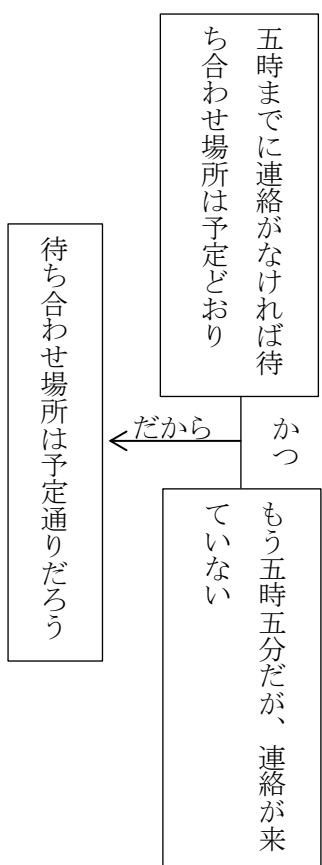
パターン1 (むすんでたどる)



パターン2 (たどる)

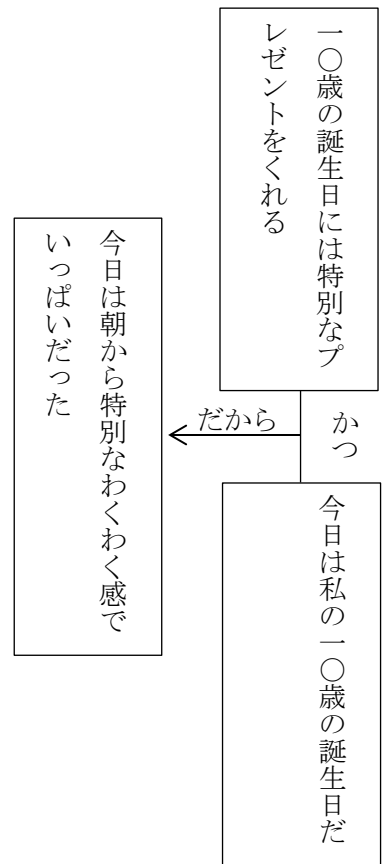


今回は、パターン1の問題(鉄則20)。



1は、右図パターン2である。犬が飛び出てきた。だから僕は驚いた。だからみんなが僕を見た。という流れ。

2が、パターン1であり、正解。



3は、二文目まではパターン2の因果関係、三文目は対比関係。  
 4は、パターン2だが、逆にたどっている(ウイアの順)。ライトが消えた。なぜなら、電池が切れたから。なぜなら、テスト用だったから。

**15** 「同等関係」「対比関係」整理問題

最後の一文を対比的に抽象化する(くらべながら言いかえる)ことが大切。

一見	より	百聞	のほうが価値がある
自分の目で見る	より	他人から聞く	
現実・現場	より	想像・仮想	
実質	より	言葉(形式)	
直接	より	間接	
身体	より	精神	

こうして、関連する反対語への言いかえを瞬時に行えるよう訓練することが肝要。こうすると、①の1・3・4は逆であり、2・5が正しいことがすぐ分かる。

①は、抽象化問題。②は、具体化問題。

一般に、具体化問題のほうが難解である。抽象化が正しくできていないと答えられないからだ。

1は、「テレビや新聞で見聞き(百聞)」よりも「被災地をこの足で訪れた(二見)」を評価しているため、不適。

2は、「友だちの言葉(百聞)」を疑っており、「のぼってみて、なるほど(二見)」と実体験を評価しているので、不適。

3は、自分の目による直接的な観察(二見)よりも、他人の分析による間接的な予報(百聞)のほうが正しかったという例であり、正解。

4は、自分が実際に訪れて得た情報(二見)は部分的であり、「たまたま訪れる」よりは幅広く被災地を当たっているであろう他者による報道(百聞)の全体性を超えられなかったという解釈が妥当であり、これも正解。

5は、授業参観(二見)の結果、うわさ(百聞)が否定された形であり、不適。

第1回 国語技能検定 バージョン1・5 **解答(3)**

**13** 10点 ( 1 ) ( )

**14** 10点 ( 2 ) ( )

**15** 6点×4

- ① ( 2 ) ( ) ( 5 ) ( )  
 ② ( 3 ) ( ) ( 4 ) ( )